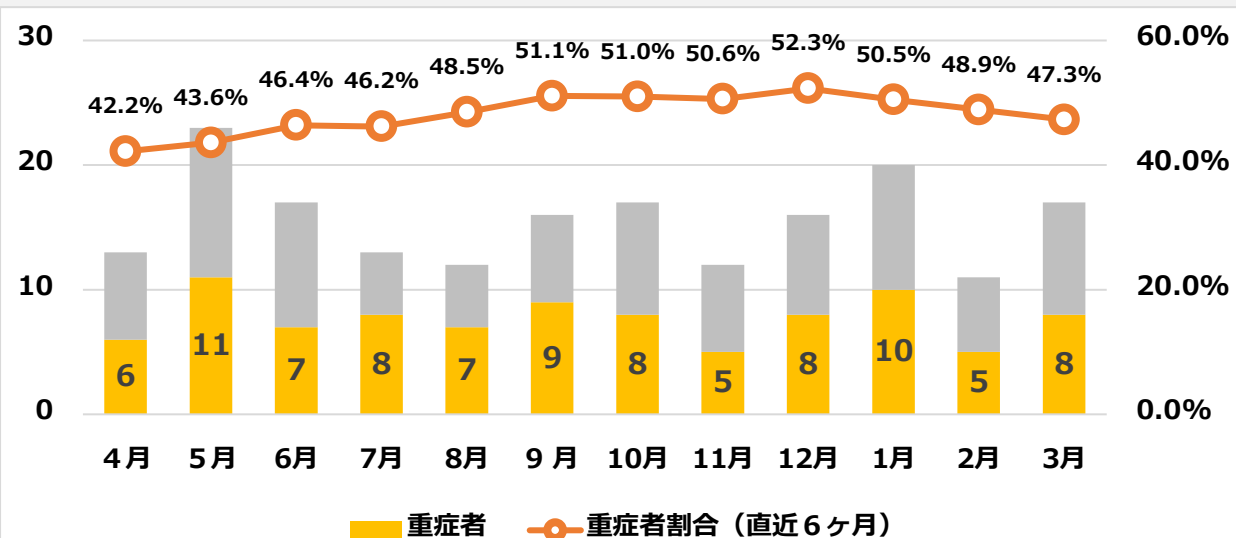


# 回復期リハビリテーション病棟アウトカム (2025年度)

## 【入院時指標】

### ＜西3病棟＞



### 【施設基準】 ※回復期リハ入院料2

- 重症割合：新規入棟者のうち日常生活機能評価10点以上が40%  
(直近6ヶ月) ※再入棟者は除く

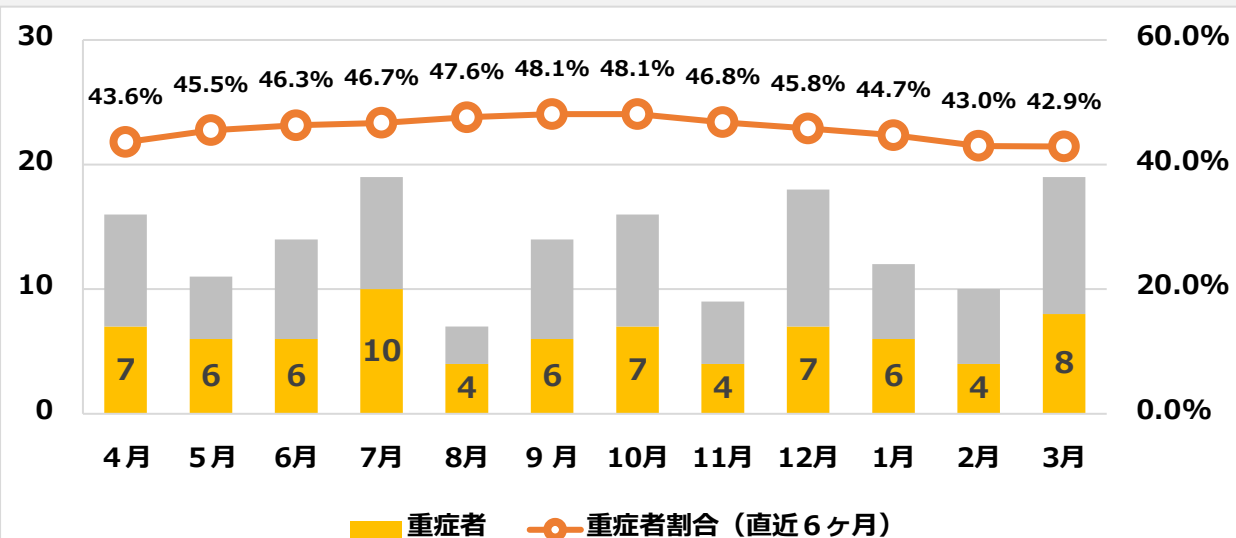
### 【考察】

2025年度に回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期リハ病棟）に入棟した患者は、他医療機関から紹介が約4割、当院急性期一般病棟からの転棟が約6割であった。また疾患別構成は、整形疾患系6割、脳血管系と廃用系がそれぞれ約2割であり、廃用病名での受け入れがやや増えている傾向であり、これは特別養護老人ホームとの連携を開始した影響と考える。

また日常生活機能評価10点以上の重症者についても日々2病棟間のベッドコントロールを回復期リハ病棟・連携室・急性期一般病棟のそれぞれの担当者で行い、高い数値を維持できた。

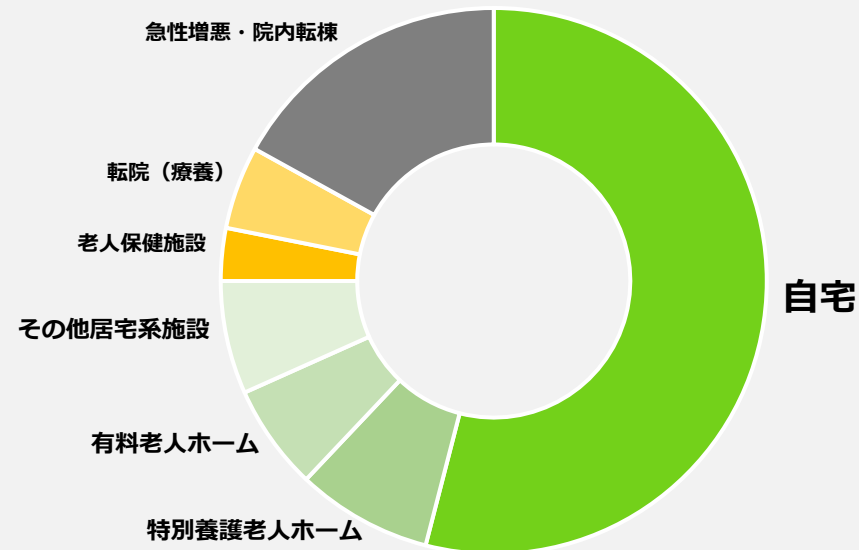
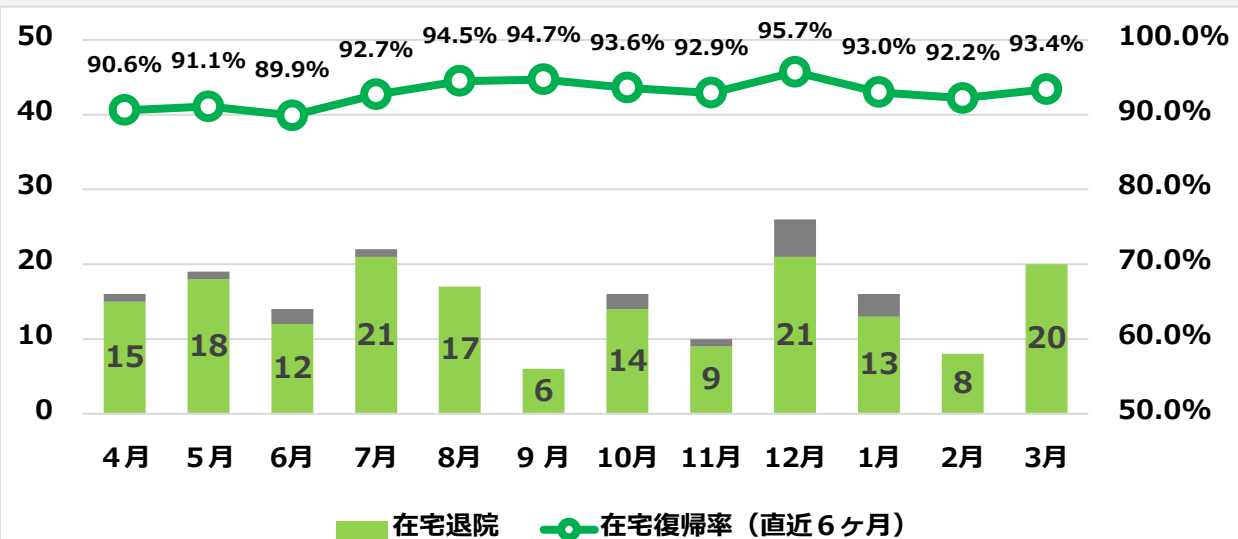
2026年の診療報酬改定では、入棟時重症者割合が35%と引き下げられるものの、重症者の評価方法が変更となるなどの変更もあり、日常生活機能評価やFIMなどADL評価の精度をさらに上げていく。

### ＜東4病棟＞

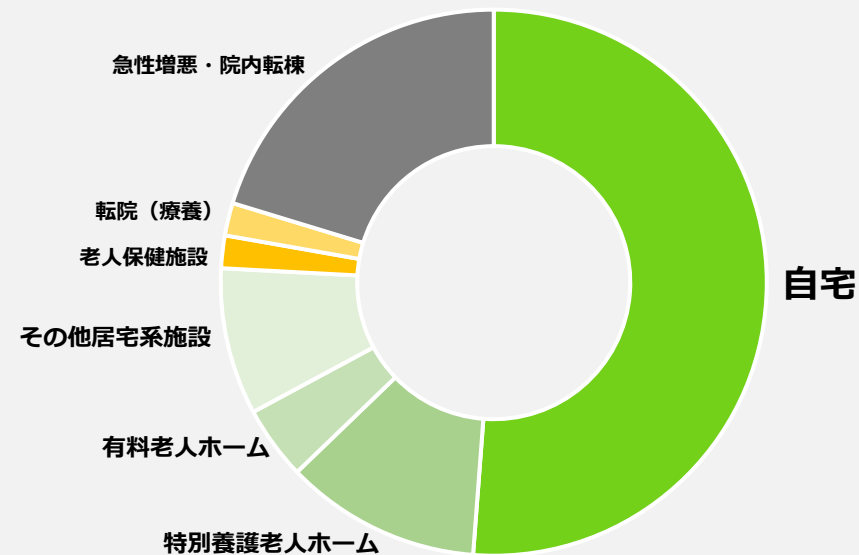
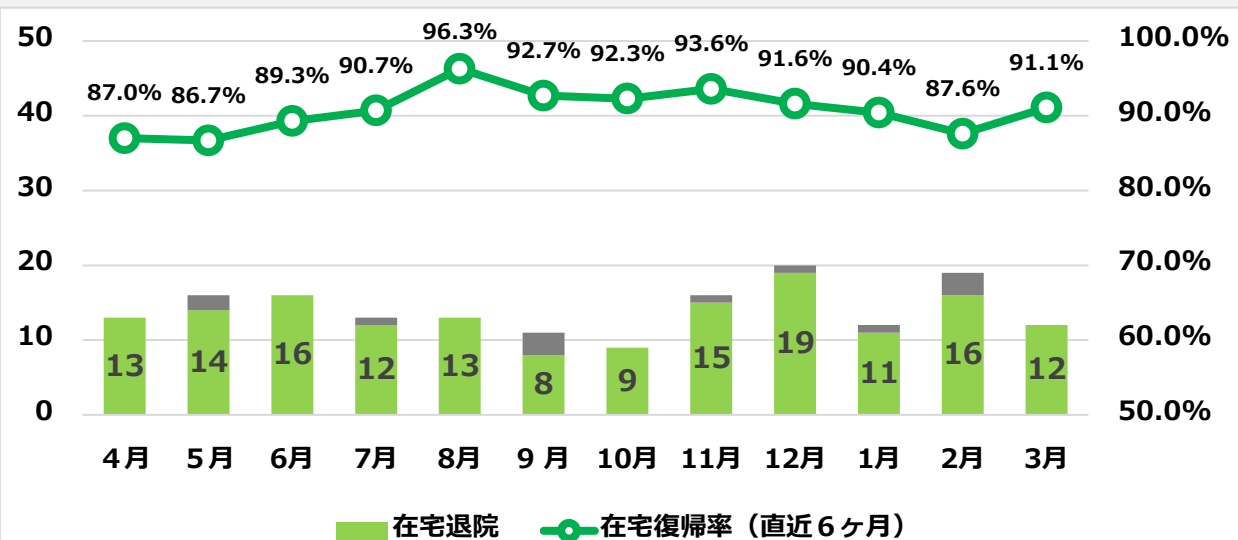


# 【退院時指標①】

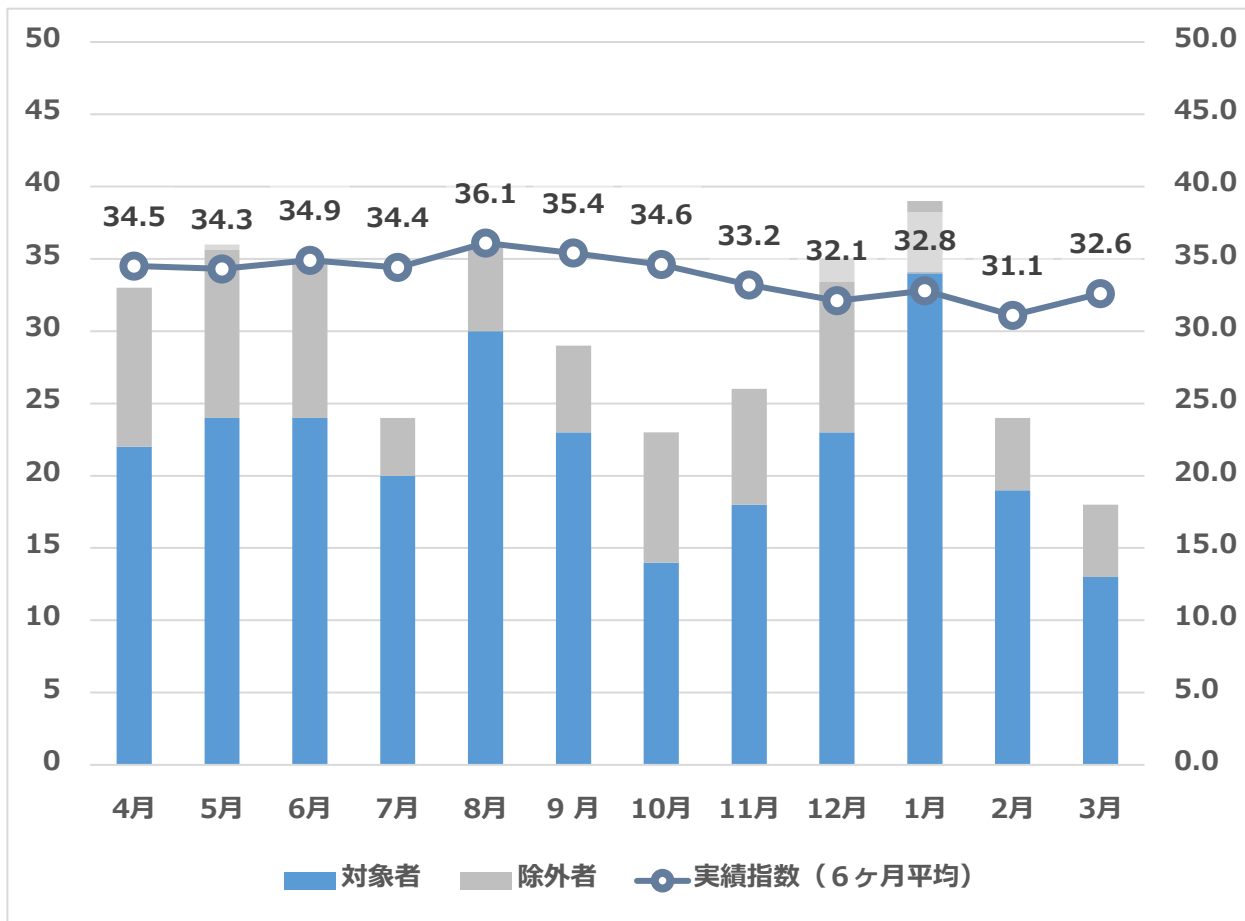
## ＜西3病棟＞



## ＜東4病棟＞



## 【退院時指標②】



各患者の運動FIM利得の総和  
各患者の(入院日数/算定上限日数)の総和

### 【施設基準】 ※回復期リハ入院料 2

#### ● 在宅復帰率：70%以上（直近6ヶ月）

※在宅：自宅、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホーム  
その他居宅施設（グループホーム、障害者支援施設等、ショートステイ）  
※急性増悪・死亡退院は対象除外

#### ● 実績指数：27以上 ※2病棟合計で算出

### 【考察】

2025年度の回復期リハ病棟の転帰先は、前年度と大きく傾向は変わらず自宅での生活再開が約5割、特別養護老人ホームや有料老人ホームなど在宅扱いの施設への入所もあり、9割以上の在宅復帰率となった。

今後は重症度や医療度が高い患者も多くなっているため、入院時訪問指導や退院前訪問指導などの取り組みに加え、退院前カンファレンスなど地域支援者との連携機会をより一層充実させる。

実績指数については、前年同程度の数値で推移している。2026年診療報酬改定では入院料2にも実績指数が設定され、現状のままでは施設基準維持が厳しい状況にある。

適切な退院支援には一定程度の期間は必要なものの、予後予測やスケジュール管理を厳密に行い、入院期間を有効に活用し効果的なリハビリテーション・ケアの提供とスムーズな地域生活再開を図っていく。